

発表：モンゴルにおける外国語教育の現状

T. サランネメフ（ウランバートル市教育局）



<資料の補足>

外国語教育～数字で～

・教育が行われている外国語は、必修科目としては英語とロシア語であり、その他は選択科目（日本語、韓国語、ドイツ語など）。最近ではフランス語が増えてきている。

首都で行われている外国語教育

・昔から外国語教育に対し国からの積極的な支援があったため、現在も盛んに行われている。

・学習時間は科目によって異なり、英語・ロシア語以外の外国語は概ね 2-5 時間/週。

日本語も学校によって異なるが、1-10 年生で 2-8 時間/週 学習している。

外国語教育の目標

・モンゴル国内には一つの外国語教育スタンダードがあり、それがすべての言語のスタンダードである。それをもとに必修言語のカリキュラムを作っている。

・英語とロシア語は完成、ドイツ語は作成段階、中国語も作成を始めている。

・外国語教育スタンダードは一つのため、英語とロシア語は区別せず一つの目標になっている。また、初等・中等も問わない。

外国語科目内容 領域

・7 分野に分かれており、各学校でさらに詳しくすることも可能。たとえば、「日常生活」という領域であれば「私の学校」、「個人と社会生活」では「私の国」など。

カリキュラム

・大学の場合、カリキュラム作成を国の方針に基づいて教員がチームで行っている。

・教育省で、カリキュラム作成にあたって外国語担当の専門家と一緒にどのようなカリキュラムやコースを作成するか考えている。

・「カリキュラム」には、領域、達成目標、シラバス、実施方法、実行後の評価も含まれている。

・カリキュラムは、同じものをずっと使い続けるのではなく、見直しをしたり改善をしたりする必要がある。

・今年から教育局だけでなく国全体で、教師中心ではなく学習者中心の考え方で、学習者が持っている能力を伸ばすための教育をするために力を入れている。